

2025年4月20（日）第二礼拝「初穂のイエス様の復活」第一コリント 15章 20節

イエス様は金曜日の朝9時に十字架につけられ、午後3時に息を引き取られ、その後、ほうむられました。そして、三日目(日曜日)の早朝、イエス様はよみがえられました。

第一番目、イエス様は死を打ち破り、眠った（死んだ）者の初穂として、死者の中からよみがえられました。その姿は手、足、わき腹に傷を受けた生前の姿のままでした。イエス様はあらゆる所でご自分を弟子たちに現され、傷跡もお見せになり、食事もされ、雲に包まれて昇天されました。弟子たちは、そのみがえったイエス様を目撃しました。このイエス様のよみがえりの姿は、私たちの将来の姿でもあります。アブラハムやラザロの話(ルカ 16:20～)にもあるように、彼らの復活の姿は本人だと分かる姿です。私たちもまた、復活の際、この世と同じ人格を持った状態で、御霊に属するからだによみがえります。「血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。…」(Iコリント 15:44)

第二番目、イエス様は、生かす御霊として私たちを生かします。「聖書に、『最初の人アダムは生きた者となった』と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。」(Iコリント 15:45) 最初のアダムは人類の先祖ですが、最後のアダムはイエス・キリストであり、生かす御霊です。その生かす御霊によって私たちはよみがえり、生かされました。「…わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、死ぬことはありません。…」(ヨハネ 11:25～26) ラザロの死後四日目に、イエス様はマルタのところに來られ、「あなたの兄弟はよみがえります。」と言われました。しかし、マルタは終わりの日にラザロがよみがえると信じていました。そこで、イエス様は、マルタが信じるなら、ラザロは“今”よみがえると言いました。その通り、ラザロはよみがえりました。私たちがイエス様を信じるなら、今よみがえりといのちを体験することができ、神様の栄光を見ることができるのです。律法によって罪に定められた私たちはサタンの支配下に置かれていましたが、そのサタンのかしらに、「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。おまえのとげはどこにあるのか。私の罪は赦された。死とは何の関係もない。」と、イエス様の勝利を宣言することができるのです。

第三番目、私たちが死に打ち勝った証拠です。「しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。」(Iコリント 15:57) 死やあらゆる問題に対して、主は勝利を与え、すべてを益に変えてくださると私たちは信じて、神様への感謝が溢れます。これが死に打ち勝った証拠です。二つ目は、揺り動かされないことです。悪い者が反映し、不法がはびこっていても、私たちは主の勝利を信じているので、揺り動かされず、主の業に励むことができるのです。私たちが主の名によって成すことはすべて、決して報いにもれることはありません。料理、片付け、弟子を教えること、病人を見舞うこと、伝道等、主の名のために成すことはすべて、報いがあるのです。ですから、私たちは主に感謝し、主の業に励んでいきましょう。アーメン！